



あきたユニセフのつどいを 開催しました



2024年8月20日(火)秋田市イヤタカにて組合員・役職員51名が参加しました。2023年度のユニセフ東ティモール指定募金1,113,842円の日録を日本ユニセフ協会に贈呈し、ユニセフ協会からは各会員生協へ感謝状が贈られました。日本ユニセフ協会の石尾匠様による「ユニセフ活動概要と東ティモール指定募金報告」では、世界の子供たちの命と健康と未来を守る国連機関であるユニセフの活動や募金の基礎知識、東ティモール指定募金、ガザ人道危機への緊急支援について報告いただきました。



募金日録の贈呈



日本ユニセフ協会
石尾 匠様



岩手県ユニセフ協会
事務局長 反町久美様



コーヒーの支援販売コーナー

岩手県ユニセフ協会事務局長 反町久美様には、日頃の活動についてご報告いただきました。現地で使う水がめや蚊帳を見せていただいたり、子どもの栄養不足の指標となる「命のメジャー」や治療食などもご紹介いただき、現地の状況に理解を深めました。

会場では「東ティモール産コーヒーを飲んで現地の生産者を支援しましょう」と呼びかけコーヒーの販売コーナーを設置し、皆さんにご協力いただきました。

県生協連が取り組んだユニセフ募金の総額は1996年からの28年間で約4,100万円にも上りました。今後もユニセフのつどいを継続し「ユニセフとは何か」「なぜ生協が協力するのか」を学び、募金活動への参加意識や理解につなげていきます。



会場の様子



2024ピースアクション in ヒロシマへ 現地派遣を行いました



ヒロシマの心を世界へ ～被爆79年 戦争も核兵器もない未来を～

8月4日(日)～5日(月)広島県生協連と日本生協連は、被爆体験の継承や核兵器のない世界への思いを共有する場として「2024 ピースアクション in ヒロシマ」を開催しました。

県生協連からコープあきた組合員 猶橋千恵子さん・智花さん親子、秋田大学学生 木下桃花さん、コープあきた職員 柴田葵さんの4名を派遣しました。

79年前のきのこ雲の下での出来事、復興への歩みなど、ヒロシマだからこそ感じる被爆の実相と被爆者の思いに触れ、改めて核兵器のない平和な世界を求める願いを全国の生協の仲間と共有しました。

後日、県生協連が主催する第40回秋田県生協大会で、この貴重な体験を参加者の皆さんに報告していただきます。



原爆ドームの前で
左から 猶橋智花さん、
木下桃花さん、柴田葵さん